# 第1回第3次稲美町男女共同参画プラン策定委員会の報告について

1 日　　時：令和3年10月14日(木)13：30～15：30
2 場　　所：いきがい創造センター　多目的ホール
3 出席委員：田端和彦・髙田智寿子・水田克美・安福　均・大村有里・赤松恭子
　　前田朋子・沼田　弘・山本勝也
4 事 務 局：北谷錦也・丸山一也・岩崎大蔵
　　(株)ｼﾞｬﾊﾟﾝｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ総合研究所　中山重寿・小山亜美
5 審議概要
第3次稲美町男女共同参画プラン（骨子案）について
①計画策定の背景について
・日本は、ジェンダーギャップ指数（R3）が調査対象となった世界156か国のうち120位。（前年度は121位）
・国の第5次計画(R2)では、指導的地位に女性が占める割合を「2020年代の可能な限り早期に30%程度となるよう取組を進める」と設定している。
・女性活躍推進に向けた動きは、事業者及び行政等への努力義務となっている。
・DV防止法(H13)等が公布施行され、女性に対する暴力の防止に向けた各種の法整備が進められている。
・SDGｓ達成に向けた気運が高まり、社会全体で取り組むべき課題であるという認識が浸透しつつある。

②稲美町男女共同参画の現状と課題について（アンケート調査結果分析含む）
・総人口は年々減少しており、高齢者(65歳以上)人口は増加を続けている。
・女性の労働力率「M字カーブ」の谷が、国や県と比較して深くなっている。
・「学校教育の場」では男女平等になっていると思う割合が高いが、「政治の場」「社会通念・習慣・しきたり等」では男性優遇と回答している割合が高い。
・職場における「休暇の取得」は、平等になっていると回答した割合が高いが、「昇進・昇格、幹部への登用」については男性優遇と回答した割合が高い。
・配偶者やパートナーからのDVを経験したことがある人のうち、「相談しても無駄だと思ったから」相談していない人の割合が高いため、相談体制の整備が必要。
・多様な性への理解について「LGBTQ等について正しい知識を得る機会がないこと」が課題であると回答した割合が高いため、正しい情報提供に努めることが必要。

③計画の基本的な考え方について
・第3次稲美町男女共同参画プラン(以下、第3次プラン)は、3つの基本目標を「プランの方向性・考え方について」「人々(住民)の生活基盤の支援について」「政策的な枠組について」と、位置づけていく。
・基本理念及び基本目標の表現については、原案をもとに協議を重ねながら決定していく。
・計画期間は令和4年度から13年度までの10年間とし、必要に応じて中間見直しを行う。

＜各委員から＞

・アンケートから、年齢層によって意識の差があると気づいた。
・アンケートの回収率が 42.1%で、半分も返ってこないのが残念に思った。
・男女共同参画についての施策は進んでいるはずだが、国や県、町の施策に女性の意見が「あまり反映されていない」と回答した割合が高いのは、制度より住民の意識の方が進んでいるのではないかと感じた。
・多様性を認め、一人ひとりを大切にするという観点から、「男女共同参画」という名称自体について考えてもよいのではないか。
・小規模な事業所まで男女共同参画プランを周知し、女性活躍推進を意識づけるための工夫が必要。
・LGBTQ の理解については、積極的にセミナーに参加するなど意識して理解しようとする姿勢が大切。
・平等にしようとするだけでなく、お互いを認め合う社会づくりをすることが大切。
・「男らしく」「女らしく」と言われて育った世代なので、アンケートの性別欄が「男」「女」「その他」となっていることに戸惑った。
・男女の収入(賃金)については依然として格差が大きいと思う。
・今の若い世代は学校教育により男女平等の意識が高く、家庭生活でもうまく役割分担できていると感じる。